

九州観光ビジネスプランコンテスト 2023

事業計画書

提出日2023年10月29日

学 校 名	中村学園大学		
学部・学科名	流通科学部 流通科学科		
チ ャーム名 (個人参加の場合は任意)	手嶋ゼミ	エントリーNo.	32

チームの紹介(任意項目)

私たちは中村学園大学流通科学部で商品開発や販売促進について学んでいます。ゼミで「観光資源」について学ぶ機会があり、“いわゆる観光地”以外にも視点や切り口を工夫することで地域の魅力を掘り起こし、訪問のきっかけを作ることができると思いました。その経験がきっかけとなって本コンテストに挑戦するにいたりしました。

チームは佐賀出身の田中と福岡出身の石井の2人で、佐賀の魅力を内と外から探していきます！

1. 取り組みテーマについて(なぜこのテーマに取り組んだのか)

・現状および課題認識

佐賀県は、2022年の都道府県魅力度ランキングで最下位、2023年は46位と評価され、全国的な評価はもとより実のところ佐賀県民でさえも「佐賀は何もない」と口にします。佐賀の定番観光としては温泉やおいしい食事、伝統的な焼き物などがありますが、どれも「佐賀にしかない」とは胸を張って言えないことが「何もない」という認識に繋がっているのだと思います。

そこで私たちは、視点や切り口を変えて「佐賀が誇れるもの」つまり「日本一」や「日本初」はないかと調査を行いました。例えば、訪問調査を行った佐賀城本丸歴史館では、「実用乗船製造『日本初』」や「パリ万博参加『日本初』」があることが分かり、佐賀県民として誇らしい気持ちになりました。さらに、調べてみると、私たちが想像していた以上に佐賀県には多くの「日本一」や「日本初」という“観光資源”があることが分かり驚きました。

また、これら「佐賀にある日本一、日本初」は全国に知られるべきだと思うと同時に、佐賀出身のメンバー（田中）ですらほとんど知らなかったことから、ぜひとも佐賀県民のみなさんにも知ってほしいと思い、県外からの誘客はもちろん佐賀県民も楽しめる観光アイデアを考えました。

2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて

【アイデア】

「佐賀で日本一・日本初をさがす旅～デジタルスタンプラリー～」

【実施方法】

- ① 「佐賀で日本一・日本初をさがす旅～デジタルスタンプラリー～」アプリをスマートフォンにインストールする。
- ② 画面のマップに表示される各スポットを訪問する。現地に掲示されたQRコードを読み込むことでスタンプが獲得できる。
- ③ 集めたスタンプの種類・数によって「佐賀の歴史・産業伝道師」「佐賀の自然伝道師」「佐賀の食伝道師」「佐賀の最強伝道師」などの称号が与えられる。

【対象者】

仕事や用事で佐賀を訪れる人、佐賀出身の県外在住者、佐賀県民、歴史・産業・自然・食に感心があり、ユニークな旅を求めている人など

※いきなり全国から誘客を目指すのではなく、佐賀県民や佐賀県に縁ゆかりのある人たちに佐賀の魅力を再発見してもらい、その魅力を伝える「伝道師」となってもらうことを目的とする。

【アプリ活用のメリット】

- ・スマートフォンの位置情報機能と連動し、現在地から近い「日本一」「日本初」を検索することができる。
- ・「歴史・産業」「自然」「食」などのジャンル別の検索も可能
- ・目的地までのアクセス方法を検索・表示することが可能
- ・情報の追加・更新が可能
- ・スマートフォン1台あれば参加できるため、仕事や用事の空き時間を利用して気軽に参加することができる
- ・紙の冊子を用いたスタンプラリーと比べ大人や一人の方でも参加しやすい

【対象 - 佐賀県が誇る日本一・日本初 - 】

《歴史・産業編》

- ・日本初の蒸気船「三重津海軍所跡」（佐賀市）
- ・日本初の反射炉・鉄製大砲（佐賀市）
- ・本丸を復元した日本初の施設「佐賀県立佐賀城本丸歴史館」（佐賀市）
- ・日本初の磁器「有田焼」（有田市）
- ・日本で最初に伝えられた稲作文化、日本最古の水稲作遺跡「葉畑遺跡」（唐津市）
- ・日本で初の海中公園「玄海海域公園」（唐津市）
- ・日本一（世界一）の容積を誇る「登り窯」（唐津市）
- ・日本初の常設型バルーンミュージアム（佐賀市）

《自然》

- ・日本一の干満差「東よか干潟」（佐賀市）
- ・日本一の干満差「海中鳥居・海中道路」（太良町）
- ・日本の松原で初の国の特別名勝に指定された「虹の松原」（唐津市）

《食編》

- ・ノリの生産量日本一「有明の風 初摘み佐賀海苔専門工房」（佐賀市）
- ・ハウスミカン収穫量日本一「道の駅太良漁師の館前」（太良町）
- ・日本最初の茶樹栽培地「栄西茶」（吉野ヶ里町）

《その他》

- ・日本一のサウナ「御船山楽園ホテルのサウナ」（武雄市）
- ・ご当地アイス日本一「竹下製菓『ブラックモンブラン』」（小城市）
- ・アップルパイ売上日本一「パン工房・藤」（鳥栖市）
- ・佐賀市内に830体以上！「恵比寿の数日本一」（佐賀市）

3. 九州や地域社会への影響について

・新たなアイデアが九州や地域に及ぼす効果（誘客、活性化等）はどうか。

「佐賀で日本一・日本初をさがす旅～デジタルスタンプラリー～」を導入することによって、出張や用事があって佐賀に来ることになった方の佐賀での滞在時間・消費が増加することが期待できます。また、佐賀出身の県外在住者や佐賀県民が楽しみながらふるさとの良さを再発見してもらい地元愛を深めてもらえたら

なと思います。佐賀県民や佐賀に縁やゆかりのある人たちが佐賀県の魅力発信の「伝道師」となってくれることで「佐賀は何もない」ではなく「佐賀ってこんなに素晴らしいものがあるよ」と胸を張ってPRすることができ、これまでに佐賀県に興味のなかった県外の方が佐賀を知り、佐賀を訪れるきっかけづくりになってくれたらいいなと思います。

さらに、デジタルならではの「情報の追加・更新が可能」という特徴を活かし、「私の町の〇〇も実は日本初らしい」「地元のお店が〇〇コンテストで日本一になりました!」といった情報を随時収集、追加していくことで、県民が主体となって“新たな観光資源”を生み出すことが可能です。「佐賀で日本一・日本初をさがす旅～デジタルスタンプラリー～」を浸透させることで、佐賀県をもっと活気あふれる町にすることができると思います。

4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介

- ・商品・サービス・ノウハウなどを分かりやすくご説明ください。
- ・「事業収入(提供金額)」「費用(事業コスト)」「告知手法」等を可能な限り記述してください。

【事業収入(観光消費額)】

「令和3年佐賀県観光動態調査」によると、佐賀県への観光客数は1,481万3,000人(日本人1,474万2,000人、訪日外国人7万1,000人)でした。また、1人当たりの観光消費額は3,673円でした。「佐賀で日本一・日本初をさがす旅～デジタルスタンプラリー～」によって観光客数(佐賀県民による県内観光も観光客数としてカウントする)が3%増加すると推定すると、約16億円(約44万人×3,673円)の事業収入(観光消費額)を見込むことができます。

【費用・(事業コスト)】

- ・アプリ開発費・運営費
- ・ポスター制作費

【告知方法】

- ・出張や用事で佐賀県を訪れる方にデジタルスタンプラリーについて知ってもらうために、移動時間に見てもらえる電車やバス、タクシーの車内にQRコード付きポスターを掲示
- ・佐賀県民向けには、JR佐賀駅や市役所・町役場、ショッピングモール等にアプリインストール用のQRコード付きポスターを掲示
- ・小中学校の長期休み前に学校を通じてデジタルスタンプラリーを紹介してもらえるように依頼

5. 事業化後の目標、持続可能性や将来のイメージなどについて

観光地としての魅力がないと自他ともに認めている現状を打破するためには、まずは地元の人が佐賀県の魅力を知り、地元の人から情報を発信するようになることで、多くの人に佐賀の魅力を伝え誘客を増加させる手段にもなるのではないかと考えました。

そして、将来的には佐賀空港を利用して日本を訪れる外国人観光客が「佐賀で日本一・日本初をさがす旅～デジタルスタンプラリー～」アプリを利用しながら今より1日、2日でも多く佐賀県に滞在し、佐賀発の日本魅力発見につながってくれることを願っています。